

市(いち)は神々との交流から、 様々な交流の場へ

古くは天から神々が降りてくる地に「市(いち)」が立ったと言われています。古代は神々の存在を前提として、物の売買を含めて広い意味での交換を行い、多くの人が集まり、賑わって、「市」は発展してきたようです。現在も商店街が衰退している中で「市」が注目され、「地域活性化」や「商店街の振興」を目的とした「朝市」が各地で活発に行われています。

今年の「かながわ朝市サミット」は、平塚八幡宮の門前通りとして発展した大門通り商店街で企画しています。「市」本来の意味も込めて、どんな想いで企画しているのでしょうか。

かながわ朝市ネットワークの会員が調べた範囲では、県下で実施されている「市」は七十近くもありました。多くの人を引き付ける魅力を持つ「市」を実施しようとする動きは今後も続くでしょう。

「市(いち)」の始まり

「市(いち)」は、その語源からいうと、身を清めて神に奉仕する「斎(いつき)」という語に結びついて「斎地(いつち)」が「いち」になったと言われています。日本最古の市と言われている海石榴市(つばいち)は、樺市の意味で、山の民が持参した山土産の椿を植え、鎮魂の歌舞い

いたようです。そして、現在まで「市」は人々の生活の中に息づいてきました。商店街が衰退している現在、多くの人を引き付ける魅力を持った「市」はさらに注目されています。「地域活性化」や「商店街の振興」を目的とした「朝市」が各地で活発に行われています。

「市」本来の意味も込めて

をして、里の民と交流したのが「市」の起源とも言われています。地の利がよく、多くの人が集まり、「市」として発展したと考えられています。「市」は男女の交歓も行われた大切な場所、恋歌の交換もなされました。

中世においては天の神々がおりてくる日に「市」が立ち、虹や木と密接に関わっていたそうです。天空にそそり立つ大木は天の神々が降りてくるとされ、虹のたつ場と同じく天界と俗界の境界領域で固定的な市が立つ場となったそうです。「市」は神の存在を前提として物の売買を含めた広い意味での交換機能を持って

り商店街が衰退したのは、神の通る道をふさいでしまったから。平塚八幡宮に通じる道を通し、一体で盛り上げれば、商店街も元気になる」と考えた若手商店主が立ちあがりました。



平塚八幡宮と分断され横断禁止

この想いに共鳴した様々な人たちが動き出しました。「かながわ朝市ネットワーク」も地元の人たちのこのような動きを応援するために「かながわ朝市サミット」をみなさんと連携して開催することにしました。

神々の存在を前提とした「市」本来の意味も込めて、企画のお手伝いをしていこうと考えています。そして、商業者、住民、学校などの地域連携のしくみがこれをきっかけに動きだすように願っています。

七夕を祝う～夏の収穫祭
 8月7日(土) 10:00~13:30 <参加費2,500円>
 自然の恵みに感謝し、健康を祈る行事でもある七夕。二宮町の古い農家の建物「ふるさとの家」で七夕行事を楽しんで、地元の無農薬有機栽培野菜や摘果みかん、地魚等を使った食材を箱膳で味わいます。ぜひ、参加してください。
 連絡先 まちづくり工房「しお風」神保
 Tel.090-3142-9358
 Fax. 0463-70-1018
 メール shiokaze@mj.scn-net.ne.jp

“町の元氣は魚屋から”
 魚屋と食堂を併設していつでも新鮮で旨い魚料理が召し上げられる魚屋カフェ!
濱の市 大口通店
 ランチは、500円から♪
 平日<11:30~14:00> 土・日・祝日<11:00~14:00>
 営業時間(定休日:毎週月曜日)
 日~木曜日<10:00~20:00> 金~土曜日<10:00~22:00>
 横浜市神奈川区大口通2番地7
 TEL&FAX 045-633-7835
 MAIL info@hamanoichi.com
 URL http://www.hamanoichi.com

◇おかげさまで創業26年◇
 まちづくり・商店街活性化のコンサルタント集団
情報企画センター 協同組合
 当組合は昨年11月に実施された「かながわ朝市サミット」の共催団体です。
 理事長 仁科 亮
 〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-18-14
 TEL.045-471-8608